

キュウリ作り成功のポイント



爽やかな緑と香味、心地よい歯触りが大きな魅力で、夏の食卓には欠かせません。長らく野菜の王座を占めていましたが、今ではトマトやイチゴなどに追い抜かれ一般家庭の消費は低迷しています。その原因としては、家庭での浅漬けの減少、規格が統一されて用途がサラダに限定されてしまったことなどが挙げられますが、家庭菜園であれば新鮮で収穫の大きさも自由に選ぶことができ、多彩な調理法も楽しめます。

上手に育て上げ、良果をたくさん得る成功のポイントは次の5点です。

(1) 早い育ちに比べられるように元肥、追肥を上手に適期に施す

植え付けの20日以上前に、畝全面に堆肥、ピートモス、有機配合、化成肥料をまき、18〜20cmの深さによく耕し込みます。生育吸収が早いので初期から肥効が十分表れることが重要です。

(2) 誘引、摘心を早めに入念に

追肥は半月に1回くらい、化成肥料と油かすを与え、肥料切れをさせないことが大切です。

毎月見回って図のように子づる（孫づるも同様に）

の摘心をおこない、親づるの支柱への縛りを遅れずにおこないましょう。葉が込み過ぎたら、重なり葉や老葉、病葉を摘除し採光、通風を良くします。

(3) マルチと灌水（かすい）で防乾

根張りが浅く、根はもろく乾燥に弱い一方で、葉は大きくて蒸散が盛んなので、それに応じる水分補給と、地面蒸発防止のフィルムマルチや敷きわらが欠かせません。

(4) 病害虫防除の薬散を適期に

べと病、炭そ病、アブラムシなどに要注意。特定の

株から発生しやすいので、早期に発見、薬剤の早期散布を心掛けます。

(5) 草勢に合わせた大きさを収穫

収穫果のサイズは100g程度は市場流通での

「JA版農業電子図書館を」つかってみよう!!

当JAでは、病害虫や雑草、農業など生産に関する情報が簡単に検索できる、タッチパネル式の情報端末「JA版農業電子図書館」を窓口相談機能の充実と、迅速な指導や最新情報の提供等、組合員サービスの向上を図るため、営農施設に設置しています。

皆様のご利用をお待ちしております。

- *設置店舗：総合営農経済センター
- 片貝営農センター
- 千田園芸資材センター



病害虫・雑草診断など簡単に操作できます!! 探したい項目を指でタッチ!!

こと。自家産はそれにこだわらず大きめ（味はこれが一番）、草勢が衰えたら小さめ（もろきゅうとして利用）、花丸（雄花開花中のもの、つま物として）など、自由度の高い収穫サイズを楽しみましょう。

●板木利隆
板木技術士事務所